

研究・調査報告書

報告書番号	担当
66	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
<p style="text-align: center;">Berberine protects C57BL/6J mice against ethanol withdrawal-induced hyperexcitability.</p> <p>ベルベリンはエタノール禁断症状で誘導される過剰興奮から C57BL/6J マウスを保護する</p>	
執筆者	
Bhutada P, Mundhada Y, Bansod K, Hiware R, Rathod S, Dixit P, Mundhada D.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
<i>Phytother Res.</i> 2011 Feb;25(2):302-7.	
キーワード	
ベルベリン、エタノール禁断症状、過剰興奮、C57BL/6J マウス	
<p>要 旨</p> <p>ベルベリンは漢方薬オウレンの主要な構成成分の 1 つであり、イソキノリンアルカロイドである。ベルベリンについては神経伝達システム調節能があるとの報告があり、特にエタノール依存に関するものが多い。エタノール依存の進展と発現へのベルベリン処理の影響を、エタノール禁断症状で誘導された過剰興奮性で調べた。マウスに唯一の栄養源として栄養的にバランスの取れた液体コントロール食を与え (day0)、day1-4 (エタノール 3%(v/v))、day5-7 (エタノール 6%(v/v))、day8-10 (エタノール 10%(v/v)) を順次、液体食に添加した。day11 にエタノール食をコントロール食に置き換え、エタノール禁断症状で誘導される過剰興奮のサインを記録した。ベルベリン (10、20 mg/kg i.p.) の急性投与により、用量依存的に過剰興奮のサインが減少し、これはジアゼパン (1.25、2.5 mg/kg i.p.) の効果に匹敵するものであった。さらにエタノール食を摂取しているマウスへのベルベリン (10、20 mg/kg i.p.) の慢性投与は顕著に過剰興奮のサインを減少させた。ベルベリンは神経調節作用を介してエタノール禁断症状で誘導される過剰興奮を阻害する可能性があること示唆された。</p>	